

ふじさき歯科 デンタルニュース

2011年 No.19



未曾有の 東北大地震災に 遭遇して

三月十一日の午後、今までに経験したことのない大きな地震に当院も襲われました。平和な日本を突如襲った大災害の始まりです。その後続いて起こった余震、大津波、原子力発電所の崩壊、放射能の拡散、道路、港湾、空港などインフラの潰滅的な破壊。その後の災害の経過はもう皆様十分ご存知のことです。

よく川や海の護岸工事、土手、防波堤などの設計をするときに、何十年に一度、何百年に一度の災害というような尺度で自然災害の大きさを予測して設計すると聞いておりますが、今回の災害は千年に一度という単位であったということに耳にいたしました。さすがにこれほどまでの大災害を予測できなかったのでしょうか。それにしても被災した人々のことを考えると本当にお気の毒と思うしかありません。心からお見舞い申し上げます。

日本の近代史を書いたある本によりますと、日本はペリーの黒船来航以来、何度かの困難な国作りを経験いたしました。一回目は明治維新。太平の江戸時代が終わりすべの事が始まり

となった日本が、そのころアジアの他の国々が次々と西洋諸国の植民地となっていた時代、40年をかけて世界の列強と肩を並べる近代国家を立派につくりあげたのです。しかし残念なことにその作り上げたものをその後の40年間で見ごとに失ってしまいました。そして敗戦国。終戦後今度は廃墟となった日本を国民全員が力を合わせ、復興に力を注ぎ立ち向かったのです。幾多の困難をのりこえまたまた40年ほどたつと世界第二の経済大国に成長しました。このように日本は約40年ほどの周期でもって成長と挫折をくりかえしてきたといえるでしょう。戦後40年ほどしてバブルの崩壊という経済的な破局を迎えたのもその流れのような気がいたします。

しかしながら日本は前述のように数度の国家的破滅状態に陥つたにもかかわらず、その都度見事に立ち直り新しい国家を築き上げてきました。この度の大地震にも見事に復興して新しい日本を作り上げることでしよう。

今回のことで多くの海外メディアが指摘しているのは、日本人の礼儀の良さ、秩序の乱れのなさ、そして助け合い、思いやりのみことさでした。私たち日本人にとつても久しぶりにたくさんのご事を思い起こされました。食べ物の喜びを自覚し、あったかいお風呂にいつ

でも入れるという幸福を実感し、不足することの恐ろしさを恐れ、被災した多くの人々と、緒に悲しみ、家族を亡くした人とともに泣き、かつての日本人に見られた質素さ、美しさをこの不幸な事件によって逆に取り戻したように思われました。こんなにすてきな人々がたくさん住んでいる日本は近い将来に今よりもっと素晴らしい国を作り上げると確信いたします。

それにしても恥ずかしいほどがっかりしてしまうのは日本の政治、いや政治家たちです。足の引っ張り合い、内輪もめ、悪口雑言の罵り合い。こんな時にいったい何をやっているのでしょうか、なんとかならないのですかね。

歯学博士 藤崎 真人

